

(日本紡織労働組合提出)

理由 曰現実主義とは何ぞや。』と云ふ疑念が日に深まりつゝあつた。社会民衆党が出現に依つて総同盟幹部が現実主義は白日の下に曝露された。理論に於て実際に於て我等は総同盟幹部の運動方針を今日まで排撃して来た。然し茲に改めて本案を提出した理由は最近総同盟幹部が黙過すべからざる階級的裏切りを働いて其の止むところを知らぬからである。

1. 国際労働会議に出席に際して鈴木文治氏以下彼等幹部が郵船争議団に對して執りし態度は何を物語るか。

2. 総同盟が協定したと云ふ団体交渉権は製鋼労働組合に於て乃至は最近の大崎岡部電機製作所に於てその協調的正体を遺憾なく曝露されて居るをばいか。

3. 東京モスリン工場に於て従業員を支拂する工員組合と会社と通謀して解散せしめ総同盟の信用組合を密輸入せしめある態度を見よ。

4. 関東合同中野醸造工支部が僉ストライキで苦闘してゐる時に彼等幹部が罷業団の出册に狂奔した事實は何を物語るか。

日本鉱夫組合が数ヶ月の努力によりて築き上げた常盤の入山炭坑支部と出册とんとし、あげよは総同盟の『団体交渉権』を賣付けんとして、彼等幹部は会社と通謀して居たではないか。

之等が曝露された事實を通じて見ると、総同盟の運動方針は一階級的裏切りの道を進んでゐる所謂現実主義を我々も理論は協調主義に墮してゐることを知る。我等は総同盟幹部の階級的悪事を社会に曝露し、廣く天下の同志と協力して労働運動の伏魔殿、総同盟幹部を積極的排撃せしむるべきである。

方法

一 大会の名を以て決議文を発表すること。

二 今後凡ゆる機会を捉へて友誼団体と協力してその正体を曝露する演説会を開催すること。

三 岡部電機の問題はあらゆる方法を以て飽くまで闘ふこと。

(三) 評議會及統一運動同盟運動方針排撃の件

(日本鉱夫組合提出)

可決